

# 宇多津町森林整備計画(案)

計画期間  
自 令和 8 年 4 月 1 日  
至 令和 18 年 3 月 31 日

(令和 8 年 月 日 樹立)

香川県 宇多津町

## 目 次

- I 伐採、造林、保育その他森林の整備に関する基本的な事項
  - 1 森林整備の現状と課題
  - 2 森林整備の基本方針
  - 3 森林施業の合理化に関する基本方針
- II 森林の整備に関する事項
  - 第1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く）
    - 1 樹種別の立木の標準伐期齢
    - 2 立木の伐採（主伐）の標準的な方法
    - 3 その他必要な事項
  - 第2 造林に関する事項
    - 1 人工造林に関する事項
    - 2 天然更新に関する事項
    - 3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項
    - 4 森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準
    - 5 その他必要な事項
  - 第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準
    - 1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法
    - 2 保育の種類別の標準的な方法
    - 3 その他必要な事項
  - 第4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項
    - 1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業の方法
    - 2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法
    - 3 その他必要な事項
  - 第5 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項
    - 1 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大に関する方針
    - 2 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大を促進するための方策
    - 3 森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項
    - 4 森林経営管理制度の活用に関する事項
    - 5 その他必要な事項
  - 第6 森林施業の共同化の促進に関する事項
    - 1 森林施業の共同化の促進に関する方針
    - 2 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策
    - 3 共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項
    - 4 その他必要な事項
  - 第7 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項
    - 1 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムに関する事項
    - 2 路網整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項
    - 3 作業路網の整備に関する事項
    - 4 その他必要な事項
  - 第8 その他必要な事項
    - 1 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項
    - 2 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項
    - 3 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項
- III 森林の保護に関する事項
  - 第1 鳥獣害の防止に関する事項
    - 1 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法
    - 2 その他必要な事項
  - 第2 森林病害虫の駆除及び予防、火災の予防その他の森林の保護に関する事項
    - 1 森林病害虫等の駆除及び予防の方法



- 2 鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項を除く。）
- 3 林野火災の予防の方法
- 4 森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項
- 5 その他必要な事項

#### IV 森林の保健機能の増進に関する事項

- 1 保健機能森林の区域
- 2 保健機能森林の区域内の森林における造林、保育、伐採その他の施業の方法に関する事項
- 3 保健機能森林の区域内における森林保健施設の整備に関する事項
- 4 その他必要な事項

#### V その他森林の整備のために必要な事項

- 1 森林経営計画の作成に関する事項
- 2 生活環境の整備に関する事項
- 3 森林整備を通じた地域振興に関する事項
- 4 森林の総合利用の推進に関する事項
- 5 住民参加による森林の整備に関する事項
- 6 森林経営管理制度に基づく事業に関する事項
- 7 その他必要な事項

## 宇多津町森林整備計画書

### I 伐採、造林、保育その他森林の整備に関する基本的な事項

#### 1 森林整備の現状と課題

本町は、香川県のほぼ中央に位置し坂出市と丸亀市に挟まれて、瀬戸内海沿岸に位置し、総面積 8 1 0 ha のうち森林面積は 8 7 ha で、森林率は 1 1 % と県平均 4 7 % に比べ、極端に低い。東には、聖通寺山（1 1 5 m）西部には青の山（2 2 4 m）があり、眼下には瀬戸内海国立公園と、それにまたがる瀬戸大橋が一望でき自然美・景観美に恵まれている。

これまで、森林の整備に当たっては、公共事業による禿山復旧事業やせきあく林地改良事業などにより、松の植栽が広範囲に行われてきたが、4 0 年代後半より松くい虫の被害を受け破滅状態となったがその後多様な天然広葉樹林に樹種転換されている。

こうした中、青の山町有林（2 7 . 8 9 ha）では、生活環境保全林が整備され、その後下方部に創造の森（1 . 8 ha）が整備され、林道、遊歩道とともによく管理され、地域住民の憩いの場となっている。近年、広葉樹林帯に竹林やツル性植物の拡大が見られ広葉樹林を脅かす存在となっており、これらの拡大を防ぐ方策が必要である。

#### 2 森林整備の基本方針

森林の整備に当たっては、森林の有する諸機能を総合的かつ高度に発揮させるため、長伐期施業により、現状の天然広葉樹林を、さらに林地に適した樹種のもと、多段林の形成を目指した樹種転換を図られるよう努め、山地災害防止と自然美、景観美にも配慮した森林整備を実施する必要がある。

また、拡大する竹林やツル性植物の繁茂地については、森林所有者の理解と協力を得ながら、有用広葉樹に転換を図っていく。

##### (1) 地域の目指すべき森林資源の姿

森林の有する主な機能	望ましい森林の姿
水源かん養機能	下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄えるすき間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林
山地災害防止機能／ 土壌保全機能	下層植生が生育するための空間が確保され適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて土砂の流出、崩壊を防止する治山施設が整備されている森林
快適環境形成機能	樹高が高く枝葉が多く茂っているなど、遮へい能力や汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林
保健・レクリエーション機能	身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民等に憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・文化・教育的活動に適した施設が整備されている森林
文化機能	史跡、名勝等と一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林

生物多様性保全機能	原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林
木材等生産機能	林木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され、成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林

(2) 森林整備の基本的な考え方及び森林施業の推進方策

森林機能区分	森林整備の基本的な考え方及び森林施業の推進方策
水源かん養機能	<p>洪水の緩和や良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とするとともに、未立木状態での土壌攪乱を抑えるため伐採時期を延長して伐採に伴う裸地の発生回数を減らす。また、重要な森林では、択伐による複層林施業を行う。</p> <p>水源涵養の機能が十全に発揮されるよう、保安林の適切な管理を推進するとともに、保安林以外の森林においても集約的な施業を行い森林整備を推進する。</p>
山地災害防止機能／土壌保全機能	<p>災害に強い地域を形成する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とするとともに、未立木状態での土壌攪乱を抑えるため伐採時期が標準伐期齢の2倍となる長伐期施業に取り組み伐採に伴う裸地の発生回数を減らす。また、重要な森林では、択伐による複層林施業への取り組みや施設設置を含めた適切な管理を行う。</p> <p>土砂の流出防備等の機能が十全に発揮されるよう、保安林の適切な管理を推進するとともに、保安林以外の森林においても集約的な施業を行い森林整備を推進する。</p>
快適環境形成機能	<p>風や騒音等の防備や大気浄化等、地域の快適な生活環境を保全する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、樹種が多様な天然生林の維持を基本とし、未立木状態の発生回数を抑えるため長伐期施業に取り組み森林状態の維持を図る。また、重要な森林では、択伐による複層林施業を行い継続的な森林状態の維持を図る。</p> <p>快適環境形成の機能が十分に発揮されるよう、保安林の適切な管理を推進するとともに、保安林以外の森林においても集約的な施業を行い森林整備を推進する。</p>
保健・レクリエーション機能	<p>町民に憩いと学びの場を提供する観点等から、広葉樹などの多様な森林整備を基本とし、未立木状態の発生回数を抑えるため長伐期施業に取り組み森林状態の維持を図る。また、重要な森林では、択伐による複層林施業を行い継続的な森林状態の維持を図る。</p> <p>保健等のための保安林の適切な管理を推進するとともに、保安林以外の森林においても集約的な施業を行い森林整備を推進する。</p>
文化機能	<p>美的景観の維持・形成の観点から、広葉樹などの多様な森林整備を基本とし、未立木状態の発生回数を抑えるため長伐期施業に取り組み森林状態の維持を図る。また、重要な森林では、択伐による複層林施業を行い継続的な森林状態の維持を図る。</p> <p>風致等のための保安林の適切な管理を推進するとともに、保安林以外の森林においても集約的な施業を行い森林整備を推進する。</p>
生物多様性保全機能	<p>生物の生息環境形成の観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、広葉樹などの多様な森林の維持を基本とする。</p>

木材等 生産機能	木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林木を生育させるための適切な造林、保育及び間伐等を推進することを基本として、将来にわたり育成単層林として維持する森林では、主伐後の植栽による確実な更新を行う。この場合、施業の集約化や機械化を通じた効率的な整備を推進することを基本とする。
-------------	---

### 3 森林施業の合理化に関する基本方針

本町に森林を有する県、町、及び個人等森林所有者で相互に連絡を密にして、官民一体となった森林施業の共同化など、組織的に推進することとする。

## II 森林整備に関する事項

### 第1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く）

#### 1 樹種別の立木の標準伐期齢

区域内の標準的な自然条件にある森林の平均成長量が最大となる年齢を基準とし、森林の有する公益的機能や森林資源の構成を勘案して決定するものであって、本町の主要樹種について、次のとおり定める。

なお、標準伐期齢は、地域を通じた立木の伐採（主伐）の時期に関する指標として定めるものであるが、標準伐期齢に達した時点での森林の伐採を促すためのものではないことに留意すること。

樹 種	ス ギ	ヒノキ	マ ツ	クヌギ・ナラ	その他広葉樹
林 齢	35年	40年	30年	10年	15年

#### 2 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

対象森林に関する自然条件及び社会的条件、森林資源の構成状況、施業制限の有無及び木材需要の動向を勘案し立木の伐採は次のとおり行うものとする。

さらに、林地の保全及び落石等の防止等のため必要がある場合には、所要の保護樹帯を設置することとする。

皆伐択伐の別	標準的な方法
皆伐	皆伐については、主伐のうち択伐以外のものとする。 皆伐に当たっては、気候、地形、土壌等の自然条件及び森林の有する公益的機能の確保の必要性を踏まえ、適切な伐採区域の形状、1箇所当たりの伐採面積の規模及び伐採区域のモザイク的配置に配慮し、伐採面積の規模に応じて、少なくともおおむね20ヘクタールごとに保残帯を設け適確な更新を図ることとする。
択伐	択伐については、主伐のうち、伐採区域の森林を構成する立木の一部を伐採する方法であって、単木・帯状又は樹群を単位として、伐採区域全体ではおおむね均等な割合で行うのであり、材積にかかる伐採率が30%以下（伐採後の造林が植栽による場合にあっては40%以下）の伐採とする。 択伐に当たっては、森林の有する多面的機能の維持増進が図られる適正な林分構造となるよう、一定の立木材積を維持するものとし、適切な伐採率によることとする。

なお、立木の伐採の標準的な方法を進めるに当たっては、以下のア～オに留意する。

ア 森林の生物多様性の保全の観点から、野生生物の営巣等に重要な空洞木について、保残等に努める。

イ 森林の多目的機能の発揮の観点から、伐採跡地が連続することのないよう、少なくとも周辺森林の成木の樹高程度の幅を確保する。

ウ 伐採後の適確な更新を確保するため、あらかじめ適切な更新の方法を定めその方法を勘案して伐採を行うものとする。特に、伐採後の更新が天然更新により行われる場合には、天然稚樹の生育状況、

母樹の保存、種子の結実、周辺の伐採跡地の天然更新の状況等に配慮することとする。  
 エ 林地の保全、雪崩、落石等の防止、風害等の各種被害の防止、風致の維持、及び溪流周辺や尾根筋等に保護樹帯を設置する。

オ 上記ア～エに定めるものを除き、「主伐時における伐採・搬出指針」（令和3年3月16日付け2林整整第1157号林野庁長官通知）のうち、立木の伐採方法に関する事項を踏まえること。

また、集材に当たっては、林地の保全等を図るため、地域森林計画第4の1(2)で定める「森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要がある森林及びその搬出方法」に適合したものとするとともに、「主伐時における伐採・搬出指針」（令和3年3月16日付け2林整整第1157号林野庁長官通知）を踏まえ、現地に適した方法により行うこととする。

人工林の生産目標ごとの主伐の時期は、下表を目安として定めること。

単位・径級：cm

樹 種	標準的な施業体系			施業上の伐採の 目安（年）
	生産目標	仕立方法	期待径級	
ヒノキ	一般建築材・大径材	中仕立	2 8	7 0
	柱材・一般建築材		2 3～	5 0～
ス ギ	一般建築材・大径材	中仕立	3 8	6 5
	一般建築材		2 0～	4 0～
マ ツ	一般建築材・大径材	—	2 6～	6 0
	一般材		2 2～	4 0～
クヌギ	シイタケ原木	—	1 0～1 6	1 5～2 0
その他広葉樹	—	—	—	1 5～

### 3 その他必要な事項 該当なし

## 第2 造林に関する事項

### 1 人工林に関する事項

人工造林については、植栽によらなければ適確な更新が困難な森林や公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林のほか、木材等生産機能の発揮が期待され、将来にわたり育成単層林として維持する森林において行う。

また、花粉発生源対策の加速化を図るため、花粉の少ない苗木（無花粉苗木、少花粉苗木、低花粉苗木及び特定苗木をいう。以下同じ。）の植栽、広葉樹の導入等に努める。

#### (1) 人工造林の対象樹種

人工造林の対象樹種
木材生産を目的とする場合には、スギ、ヒノキ、マツ及び造林実績のある有用広葉樹

尚、上記の樹種以外の樹種を植栽しようとする場合は、県又は本町林務担当部局とも相談の上、適切な樹種を選択するものとする。苗木の選定については、成長に優れたエリートツリー（第2世代精英樹等）等の苗木や花粉の少ない苗木の増加に努めることとする。

#### (2) 人工造林の標準的な方法

##### ア 人工造林の標準的な方法

<植栽本数>

樹 種	仕立ての方法	植栽本数（1ha 当り）
ヒノキ	疎仕立て	2, 0 0 0～3, 0 0 0本
	中仕立て	3, 0 0 0～3, 5 0 0本
	密仕立て	3, 5 0 0～4, 0 0 0本
ス ギ	疎仕立て	2, 0 0 0～3, 0 0 0本
	中仕立て	3, 0 0 0～3, 5 0 0本
	密仕立て	3, 5 0 0～4, 0 0 0本

マ ツ	疎仕立て	2, 0 0 0～3, 0 0 0本
	中仕立て	3, 0 0 0～3, 5 0 0本
	密仕立て	3, 5 0 0～4, 0 0 0本
クヌギ	疎仕立て	2, 0 0 0～3, 0 0 0本
	中仕立て	3, 0 0 0～3, 5 0 0本
	密仕立て	3, 5 0 0～4, 0 0 0本

尚、上記の標準的な植栽本数の範囲を超えて植栽しようとする場合は、県又は本町林務担当部局とも相談の上、適切な植栽本数を判断するものとする。

#### イ その他人工造林の方法

区 分	標準的な方法
地拵えの方法	全刈法（全面的に雑草木を取り除く方法）。場所によっては、すじ刈法、坪刈法を用いる。
植付けの方法	長方形植栽又は正方形植栽。地形によっては正三角形植栽。
植栽の時期	早春成長を始める直前を適期とするが、気候等によっては、秋季成長の終わった頃に行う。

また、コンテナ苗の活用や伐採と造林の一貫作業システムの導入に努める。

#### (3) 伐採跡地の人工造林をすべき期間

森林の有する公益的機能の維持及び早期回復並びに森林資源の造成を図るため、人工造林をと  
もなうのにあつては、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して2年以内に植栽  
することとする。ただし、択伐による伐採は終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して  
5年を超えない期間とする。

### 2 天然更新に関する事項

天然更新については、前生稚樹の生育状況、母樹の存在など森林の現況、気候、地形、土壌等の  
自然条件、林業技術体系等からみて、主として天然力の活用により適確な更新が図られる森林にお  
いて行うものとし、「香川県天然更新完了基準」により、森林の確実な更新を図ることとする。

#### (1) 天然更新の対象樹種

天然更新の対象樹種	マツ、クヌギ、コナラ、シイ類、カシ類など県内に自生する 高木及び造林木
ぼう芽更新可能樹種	ナラ類、カシ類、シイ類等、ぼう芽力の大きい樹種

#### (2) 天然更新の標準的な方法

##### ア 天然更新の対象樹種の期待成立本数

期待成立本数
10,000 本/ha

天然更新を行う際には、稚樹高が50cm以上かつ隣接する競合植物の高さ以上であり、期待成  
立本数に対して、10分の3を乗じた本数以上が成立している状態（「立木度」が3以上の状態）  
をもって更新完了とする。

##### イ 天然更新補助作業の標準的な方法

天然更新に当たって、地表処理、刈出し、植込み、芽かきの方法その他天然更新補助作業とし  
て必要な事項等は次のとおりとする。なお、ぼう芽更新による場合には、ぼう芽の発生状況等  
を考慮し、必要に応じ、芽かき又は植込みを行うものとする。

区分	標準的な方法
地表処理	ササや粗腐植の堆積等により天然下種更新が阻害されている 箇所において、かき起こし、枝条整理等の作業を行う。
刈出し	ササなどの下層植生により更新樹種の生育が阻害されている 箇所について行う

植込み	更新樹種の生育状況等を勘案し、天然更新が不十分な箇所に必要な本数を植栽する
芽かき	優勢なものを1株に概ね3～4本残し、残りをかきとる。

#### ウ その他天然更新の方法

「香川県天然更新完了基準」に基づき、伐採跡地の天然更新の状況を確認するとともに、更新すべき立木の本数に満たず天然更新が困難であると判断される場合には天然更新補助作業又は人工造林により確実に更新を図るものとする。

#### (3) 伐採跡地の天然更新をすべき期間

森林の有する公益的機能の維持及び早期回復を図るため、天然更新すべき期間は、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して伐採後5年以内とし、更新状況を確認することとする。

更新が完了していないと判断されるものについては、更新補助作業又は人工造林等を行い確実な更新を図るものとする。

### 3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項

#### (1) 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の基準

植栽によらなければ適確な更新が困難な森林は、現況が針葉樹人工林であり、母樹となり得る高木性の広葉樹が更新対象地の斜面上方や周囲100m以内に存在せず、林床にも更新樹木が存在しない森林を基本とする。

#### (2) 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の所在

該当なし

### 4 森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準

#### (1) 造林の対象樹種

##### ① 人工造林の場合

1の(1)による。

##### ② 天然更新の場合

2の(1)による。

#### (2) 生育し得る最大の立木の本数として想定される本数

生育し得る最大の立木の本数
3,000 本/ha

### 5 その他必要な事項

該当なし

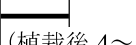
## 第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準

### 1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法

樹 種	施業体系	間伐時期（年）				間伐の方法
		初回	2回	3回	4回	
ヒノキ	植栽本数 2,000～4,000本 柱材・一般建築材	20～40年生 地位等を考慮し必要な回数を行う。				選木の方法: 枯損木, 病虫害木, 被圧木などの順に, 幹の形質に重点をおいて行う。

	植栽本数 2,000～4,000本 一般建築材・大径材	20～60年生 地位等を考慮し必要な回数を行う。	間伐率：間伐本数率は、 おおむね、10～30% とする。  但し、林分密度によって 適宜変動する。 なお、材積率について は、材積に係る伐採率が 35%以下であり、かつ伐 採年度の翌年度の初日か ら起算しておおむね5年 後において、その森林の 樹冠疎密度が10分の8 以上に回復することが確 実であると認められる範 囲とする。
スギ	植栽本数 2,000～4,000本 柱材・一般建築材	20～40年生 地位等を考慮し必要な回 数を行う。	
	植栽本数 2,000～4,000本 一般建築材・大径材	20～60年生 地位等を考慮し必要な回数を行う。	
マツ	植栽本数 2,000～4,000本	間伐時期及び回数は必要に応じ て行う。	高齢級の森林については 立木の成長力に留意して 定めること。  「ヒノキ、スギにおける 標準伐期齢未満の平均 的な間伐間隔：10年」
クヌギ	植栽本数 2,000～4,000本	間伐時期及び回数は必要に応じ て行う。	「ヒノキ、スギにおける 標準伐期齢以上の平均 的な間伐間隔：20年」

## 2 保育の種類別の標準的な方法

保育の種類	樹種	実施すべき標準的な林齢及び回数								備考
		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
下刈り	ヒノキ スギ	 (植栽後 5～7 年生)								回数：毎年 1～2 回程度 (植栽後の生育状況等を踏 まえ、実施回数や実施期間 を判断する。)
	マツ クヌギ	 (植栽後 4～5 年生)								
つる切	ヒノキ スギ	 (下刈後、除伐まで)								回数：通常 2 回程度
	マツ クヌギ									
除伐	ヒノキ スギ	 (植栽後 10 年～間伐まで)								
	マツ クヌギ	 (植栽後 7 年～間伐まで)								
枝打	ヒノキ スギ	 (植栽後 10 年～25 年生)								回数：通常 4～5 回(生産目 標によっては、伐採前の数 年間行う場合もある。
	マツ クヌギ									
肥培	ヒノキ スギ	 (植栽後 2 年～3 年生)								(必要に応じて、せき悪林 地に、植栽後 2～3 回施肥 を行う。)
	マツ クヌギ									



### 3 その他必要な事項

雑草木の繁茂が著しい等の事由で林木の成長が遅い区域については、標準的な方法に示す林齢を超えても、必要に応じ保育を行うものとする。

上記 1、2 によるもののほか、特に実施すべき間伐及び保育等の必要性が生じた場合は、立木に支障を来さないよう実施するものとする。

## 第 4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

### 1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業の方法

#### (1) 水源かん養機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

##### ア 区域の設定

別表 1 のとおり

##### イ 施業の方法

施業の方法として、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とし、伐期の間隔の拡大とともに伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ることとする。また、当該森林の伐期齢の下限については、次のとおり定める。

樹 種	ス ギ	ヒノキ	マ ツ	クヌギ・ナ ラ	その他広葉樹
林 齢	4 5 年	5 0 年	4 0 年	2 0 年	2 5 年

森林の区域については、別表 2 により定める。

#### (2) 土地に関する災害の防止機能及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能、保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林その他水源かん養機能維持増進森林以外の森林

##### ア 区域の設定

別表 1 のとおり

##### イ 施業の方法

これらの公益的機能の維持増進を特に図るための森林施業を推進すべき森林については、択伐による複層林施業を推進すべき森林として定める。また、適切な伐区の形状・配置等により、伐採後の林分においてこれらの機能の確保ができる森林は、「長伐期施業を推進すべき森林」として定めるものとし、主伐の時期を標準伐期齢のおおむね 2 倍以上とするとともに、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図るものとする。長伐期施業を推進すべき森林の伐期齢の下限については、次のとおり定める。

樹 種	ス ギ	ヒノキ	マ ツ	クヌギ・ナ ラ	その他広葉樹
林 齢	7 0 年	8 0 年	6 0 年	2 0 年	3 0 年

それぞれの森林の区域については、別表 2 に定める。

### 2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法

#### (1) 区域の設定

林木の生育に適した森林、林道等の開設状況や経営管理実施権の設定見込み等から効率的な施業が可能な森林、木材等生産機能の評価区分が高い森林で、自然条件等から一体として森林施業を行うことが適当と認められる森林について、木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林を別表 1 により定める。

#### (2) 施業の方法

木材等林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給するため、生産目標に応じた主伐の時期及び方法を定めるとともに、植栽による確実な更新、保育、間伐等を推進することを基本とし、森林施業の集約化、路網整備や機械化等を通じた効率的な森林整備を推進する。

- 3 その他必要な事項  
該当なし

第5 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項

- 1 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大に関する方針  
該当なし
- 2 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大を促進するための方策  
該当なし
- 3 森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項  
該当なし

4 森林経営管理制度の活用に関する事項

効率的な森林の施業及び経営の円滑化を図り、森林の経営管理（自然的経済的社会的諸条件に応じた適切な経営又は管理を持続的に行うことをいう。以下同じ。）を実施するため、森林経営管理制度の活用を推進するものとする。

森林経営管理制度に基づく意向調査については、森林簿や林地台帳を基に経営管理が行われていないと思われる森林を対象として実施し、森林所有者が責務を果たすよう森林経営計画の作成を促進するものとする。

また、森林の経営管理を森林所有者自らが実行できない場合には、宇多津町が経営管理の委託を受け、林業経営に適した森林については意欲と能力のある林業経営者に再委託するとともに、再委託できない森林及び再委託に至るまでの間の森林については宇多津町が自ら経営管理を実施するものとする。

なお、経営管理権集積計画又は経営管理実施権配分計画の作成に係る記載に当たっては、当該計画が宇多津町森林整備計画に定められた公益的機能別施業森林及び木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林における施業の方法との整合が図られたものとなるように留意する。

- 5 その他必要な事項  
特になし

第6 森林施業の共同化の促進に関する事項

1 森林施業の共同化の促進に関する方針

林家世帯の高齢化等により、低下している森林の維持管理を図るため、町、森林組合、県等が中心となって、森林施業の共同化をめざし、森林所有者間の合意形成を図るとともに計画的に森林施業を推進することが重要であるが、本町では該当林家世帯がなく、具体的な促進は困難である。

- 2 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策  
該当なし
- 3 共同して森林施業を実施するうえで留意すべき事項  
該当なし
- 4 その他必要な事項  
該当なし

第7 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項

1 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムに関する事項

効率的な森林施業を推進するため、林地の傾斜区分や搬出方法に応じて次表の路網密度の水準を目安に林道（林業専用道を含む。以下同じ。）及び森林作業道を適切に組み合わせて開設し、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムを構築するものとする。

区分	作業システム	路網密度（m/ha）		
		基幹路網	細部路網	合計
緩傾斜地 (0° ～15° )	車両系 作業システム	30～40	70～210	110 以上
中傾斜地 (15° ～30° )	車両系 作業システム	23～34	52～165	85 以上
	架線系 作業システム	23～34	2～41	25 以上
急傾斜地 (30° ～35° )	車両系 作業システム	16～26	35～124	60 〈50〉 以上
	架線系 作業システム	16～26	0～24	20 〈15〉 以上
急峻地 (35° ～)	架線系 作業システム	5～15	—	5 以上

注1：「架線系作業システム」とは、林内に架設したワイヤーロープに取り付けた搬器等を移動させて木材をつり上げて集積するシステム。スイングヤード等を活用する。

注2：「車両系作業システム」とは、林内ワイヤーロープを架設せず、車両系の林業機械により林内の路網を移動しながら木材を集積、運搬するシステム。フォワーダ等を活用する。

注3：「急傾斜地」の〈 〉書きは、広葉樹の導入による針広混交林化など育成複層林へ誘導する森林における路網密度である。

なお、路網密度の水準については、木材搬出予定箇所に応用し、尾根、溪流、天然林等の除地には適用しない。

2 路網整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項

路網整備等推進区域	面積	開設予定路線	開設予定延長	対図番号	備考
該当なし					

3 作業路網の整備に関する事項

(1) 基幹路網に関する事項

ア 基幹路網の作設にかかる留意点

適切な規格・構造の路網の整備を図る観点等から、林道については林道規程（昭和48年4月1日48林野道第107号林野庁長官通知）及び香川県林業専用道作設指針に基づいて開設する。

イ 基幹路網の整備計画

開設/ 拡張	種 類	区 分	位 置 (市町)	路線名	延長及び 箇所数	うち前半 5年分
拡張	自動車道	(改良)		青の山・山下	1	

基幹路網の開設に当たっては、自然条件や社会的条件が良好であり、将来にわたり育成単層林として維持する森林を主体に整備を加速化させるなど、森林施業の優先順位に応じた整備を推進する。

ウ 基幹路網の維持管理に関する事項

「森林環境保全整備事業実施要領」（平成14年3月29日付け13林整第885号林野庁長官通知）、

「民有林林道台帳について」（平成8年5月16日8林野基第158号林野庁長官通知）等に基づき、管理者を定め、台帳を作成して適切に管理する。

(2) 細部路網に関する事項

ア 細部路網の作設に係る留意点

森林作業道の開設については、傾斜等の自然条件、事業量のまとまり等地域の特性に応じて、環境負荷の低減に配慮し、木材の搬出を伴う間伐の実施や多様な森林への誘導等に必要な森林施業を効果的かつ効率的に実施するため、一般車両の走行を想定する「林道」、主として森林施業用の車両の走行を想定する「林業専用道」、集材や造材等の作業を行う林業機械の走行を想定する「森林作業道」からなる路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムに対応したものとする。

また、丈夫で簡易な規格・構造の路網を整備する観点から、森林作業道作設指針（平成22年11月17日付け22林整整第656号林野庁長官通知）及び香川県森林作業道作設指針に基づいて開設する。

イ 細部路網の維持管理に関する事項

森林作業道作設指針（平成22年11月17日付け22林整整第656号林野庁長官通知）及び香川県森林作業道作設指針に基づき、森林作業道が継続的に利用できるよう適正に管理することとする。

4 その他必要な事項

該当なし

第8 その他必要な事項

1 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項

林業従事者の通年雇用化や社会保険への加入促進等による雇用関係の明確化と雇用の安定化、賃金体系の改善や就労条件の改善等を図るとともに、森林組合等が取り組む作業班員に対する労働安全衛生研修や技術研修等を支援する。また、効率的な森林施業の計画を策定できる専門知識を持った、森林施業プランナーの育成を支援し、地域の林業の中核となる人材の育成を図るとともに、地域の実態に応じた林業への新規参入・起業など林業従事者の裾野の拡大、女性等の活躍・定着等に取り組むこととする。さらに、林業への就業希望者に、求職情報の提供や技術研修、各種相談業務を行う「林業労働力確保支援センター」を支援し、新規林業従事者の確保に努めるとともに、林研グループ等の活動を支援し、林業後継者を育成することとする。

2 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項

該当なし

3 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項

国内市場で最初に木材の譲受け等をする木材関連事業者の取り扱う全ての木材が合法性確認木材となるよう、令和5年に改正された合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（平成28年法律第48号）に基づき、木材関連事業者による合法性の確認等の実施及び合法性確認木材等の取扱数量の増加等の取組を着実に進める。

Ⅲ 森林の保護に関する事項

第1 鳥獣害の防止に関する事項

1 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法

(1) 区域の設定

設定なし

(2) 鳥獣害の防止の方法

該当なし

2 その他必要な事項

該当なし

## 第2 森林病虫害の駆除及び予防、火災の予防その他の森林の保護に関する事項

### 1 森林病虫害等の駆除及び予防の方法

#### (1) 森林病虫害等の駆除及び予防の方針及び方法

森林を保全するためには、森林病虫害を早期発見、早期駆除が重要であることから、これらを担う体制の整備に努める。

また、被圧木等森林病虫害の感染源となる林内環境を改善するため、地域の実態に応じ森林整備など予防措置の実施に努める。

特にナラ枯れ被害については、まん延を防止し、森林の持つ多面的機能を確保するため、「香川県ナラ枯れ防除対策方針」に基づき、関係機関等と連携し、地域の被害状況等に応じた、効率的、効果的な防除対策を講じる。

### 2 鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項を除く。）

被害情報の収集に努めるとともに、被害予測に基づく計画的な防護柵の設置などにより適切な被害対策を実施する。

### 3 林野火災の予防の方法

林野火災対策として、各種の普及啓発活動により防火意識の高揚を図るとともに、気象災害や林野火災等の不測の事態に対する備えとして、森林保険への加入を促進する。

また、立入の多い森林を重点として林野火災予防標識等を設置するなど、関係機関と連携を図りながら施設の充実に努める。

### 4 森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項

火入れを実施する場合は、「宇多津町火入れに関する条例」（昭和60年9月24日条例第13号）を遵守するものとする。

### 5 その他必要な事項

該当なし

## IV 森林の保健機能の増進に関する事項

### 1 保健機能森林の区域

該当なし

### 2 保健機能森林の区域内の森林における造林、保育、伐採その他の施業に関する事項

該当なし

### 3 保健機能森林の区域内における森林保健施設の整備に関する事項

該当なし

### 4 その他必要な事項

該当なし

## V その他森林の整備のために必要な事項

### 1 森林経営計画の作成に関する事項

#### (1) 森林経営計画の記載内容に関する事項

森林経営計画を作成するに当たり、次に掲げる事項について適切に計画すべきものとする。

ア IIの第2の3の植栽によらなければ適確な更新が困難な森林における主伐後の植栽

イ IIの第4の公益的機能別施業森林の整備に関する事項

ウ IIの第5の3の森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項及びIIの第6の3の共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項

エ IIIの森林の保護に関する事項

なお、経営管理実施権が設定された森林については、森林経営計画を樹立して適切な施業を確保することが望ましいことから、経営管理実施権配分計画が公告された後、林業経営者は、当該森林について森林経営計画の作成に努める。

- (2) 森林法施行規則第33条第1号のロの規定に基づく区域  
該当なし

2 生活環境の整備に関する事項

該当なし

3 森林整備を通じた地域振興に関する事項

該当なし

4 森林の総合利用の推進に関する事項

該当なし

5 住民参加による森林の整備に関する事項

該当なし

6 森林経営管理制度に基づく事業に関する事項

該当なし

7 その他必要な事項

盛土等に伴う災害を防止するため、宅地造成及び特定盛土等規制法（昭和36年法律第191号）に基づき、知事等が指定する規制区域の森林の土地においては、谷部等の集水性の高い場所における盛土等は極力避けるとともに、盛土等の工事を行う際の技術的基準を遵守させるなど、制度を厳正に運用することとする。

「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を踏まえ、地域の生物多様性保全に配慮した森林施業を推進する。

別表 1

区分		森林の区域	面積 (ha)
水源の涵養の機能維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林			
土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	全域	85.09
	快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	全域	85.09
	保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	全域	85.09
木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林			

別表 2

区分		森林の区域	面積 (ha)
水源の涵養の機能維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林			
土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	長伐期施業を推進すべき森林	1-1・2・3(※1) 1-4・5・7 2-3・4・7・10・14(※1) 2-1・2・5・6・9・11・15・17・18 3-1	54.55
	複層林施業を推進すべき森林 (択伐によるものを除く)		
		1-1・2・3(※2) 2-3・4・7・10・14 (※2)	30.54
	特定広葉樹の育成を行う森林施業を推進すべき森林		

※1：森林法又は自然公園法等で択伐施業に制限されている森林を除く。

※2：森林法又は自然公園法等で択伐施業に制限されている森林に限る。





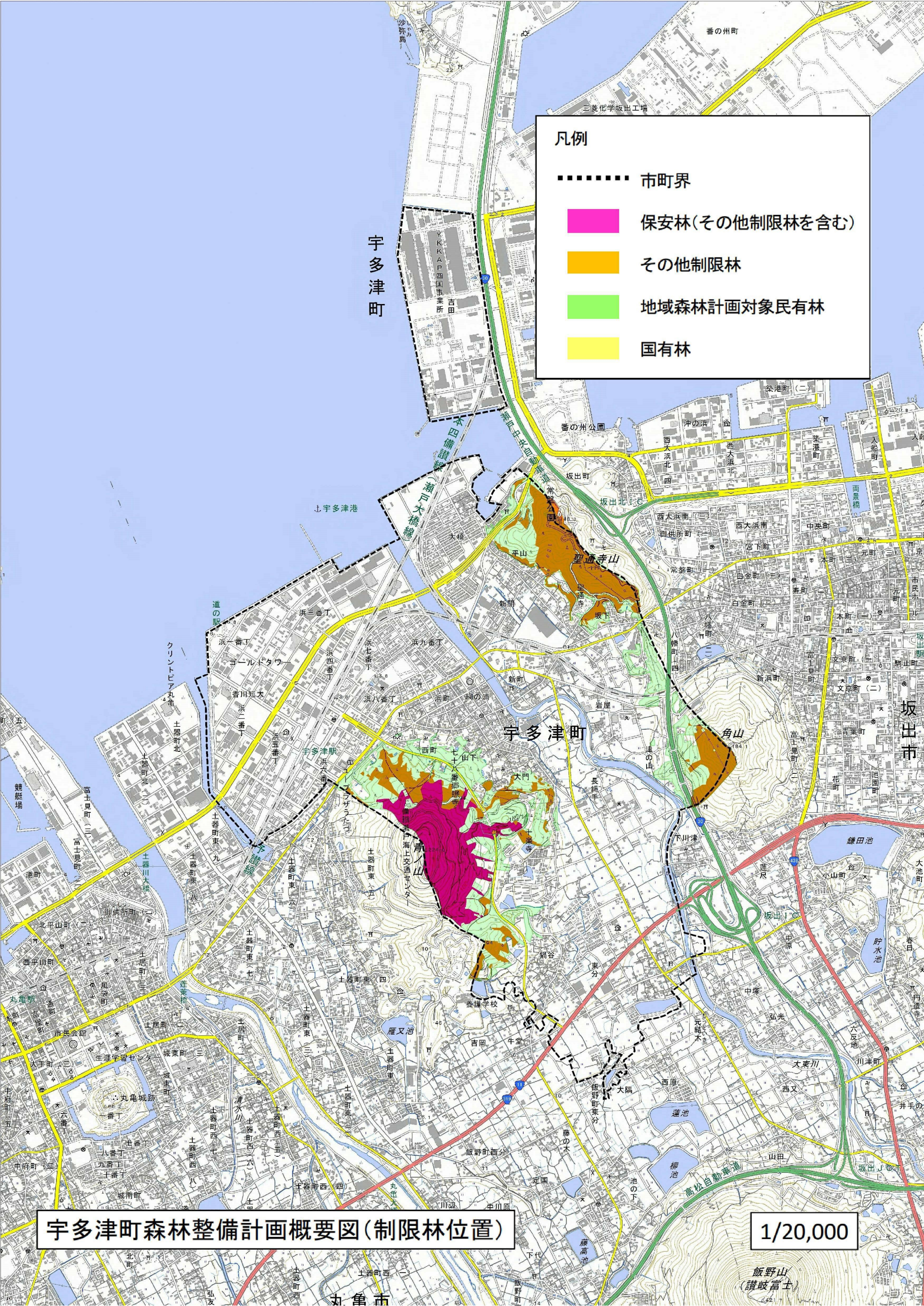
凡例

- 市町界
- 林道・森林作業道(既設)
- 林道・森林作業道(新規)
- 地域森林計画対象民有林
- 国有林

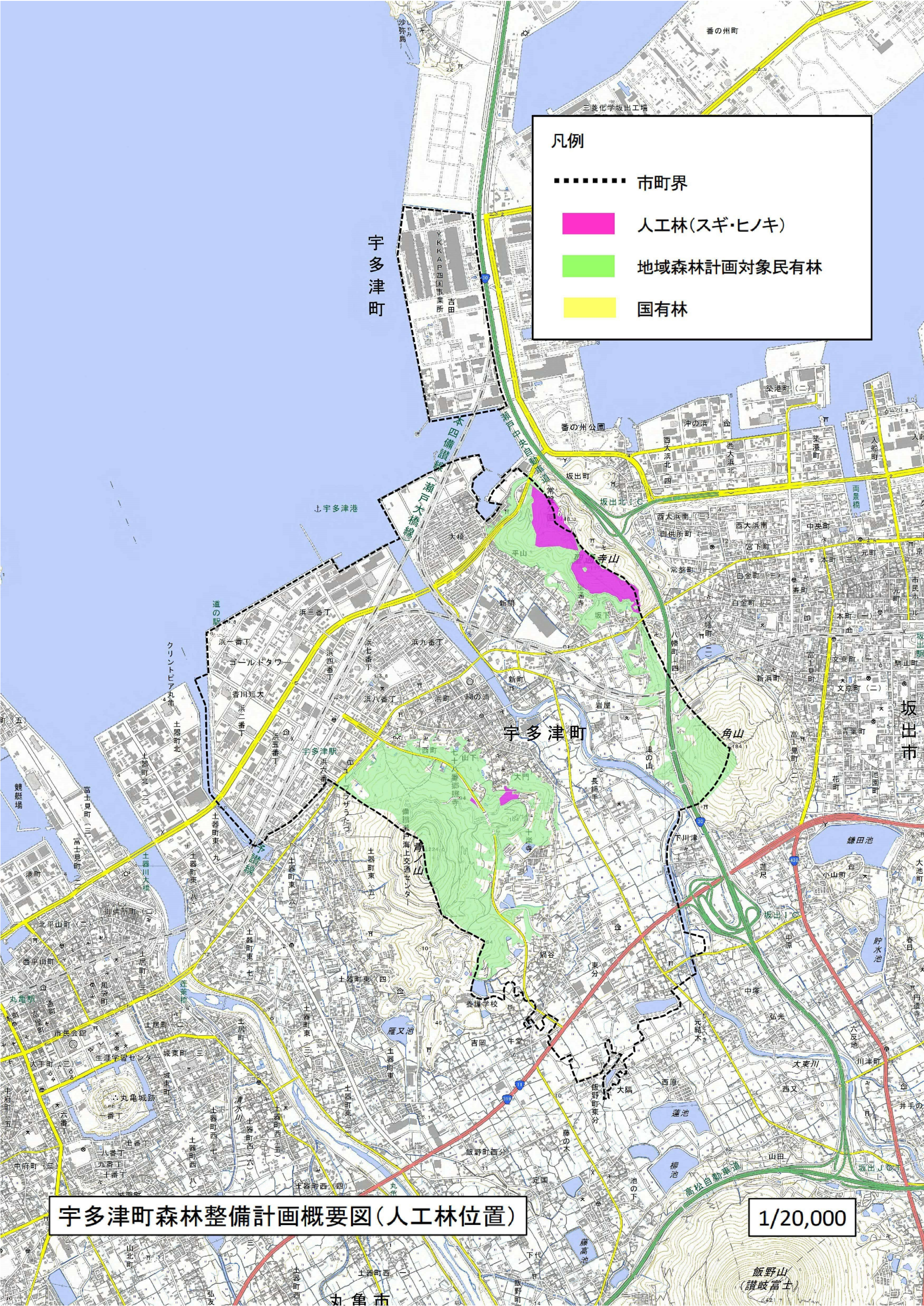
宇多津町森林整備計画概要図

1/20,000









凡例

- 市町界
- 人工林(スギ・ヒノキ)
- 地域森林計画対象民有林
- 国有林

宇多津町森林整備計画概要図(人工林位置)

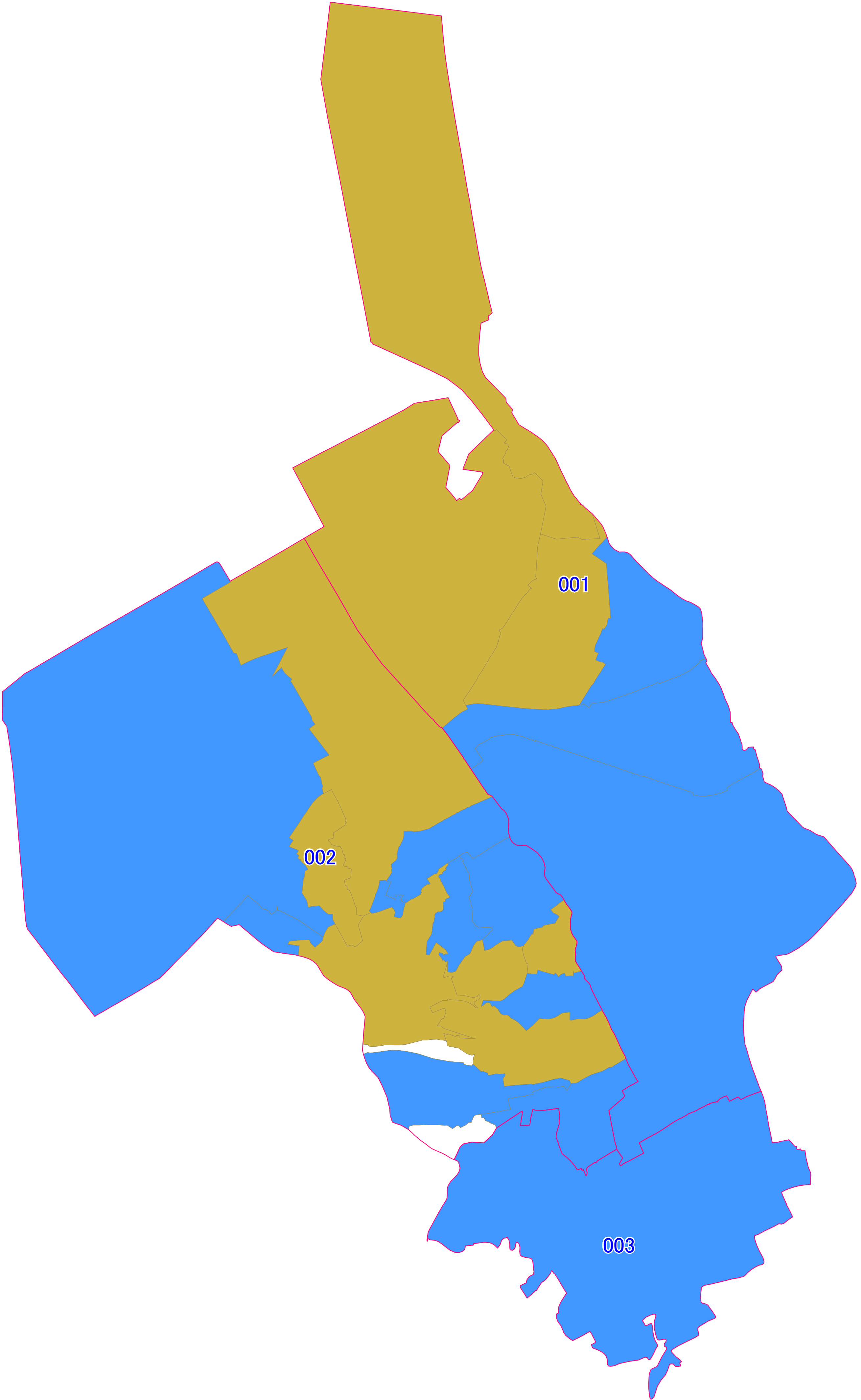
1/20,000







公益的機能別施業森林の施業方法(宇多津町)



— 〇〇 林班界・林班番号  
国有林

準林班推進方向	
伐期延長	
長期伐期施業	
複層林施業(除く択伐)	
複層林施業(択伐)	
特定広葉樹	
通常伐期	
伐期延長・複層林施業(択伐)	
長伐期施業・複層林施業(択伐)	
通常伐期・複層林施業(択伐)	
白地	